



プレスリリース

2025 年 7 月 29 日

Asana、「AI と働き方の現在地：2025 年の日本」を発表

日本企業の AI 導入は転換期へ – 導入進むも、調整業務は増加
～高齢化社会・労働力減少の中、スケール戦略が競争力の分岐点に～

エンタープライズワークマネジメントプラットフォームのリーディングカンパニー、米国 Asana, Inc. (以下、Asana) の日本法人・アサナジャパン株式会社（東京都千代田区）は、本日、日本国内のナレッジワーカー2,034 名を対象に実施した調査レポート「AI と働き方の現在地：2025 年の日本 -なぜ AI だけでは、非効率な仕事が続くのか-」を発表しました。同レポートは、日本の AI 導入が重要な転換期を迎えていることを示唆しており、AI のスケール戦略を持つ企業が競争優位性を確立する一方、そうでない企業は停滞する現状を明らかにしています。

■日本に迫る“AI パラドックス”——生産性向上のはずが、調整業務はむしろ増加

日本は G7 で最も高齢化が進み、出生率も最も低い国の一つであり、労働人口の減少が深刻な課題となっています。こうした背景の中、日本企業が AI の可能性を最大限に活かせるかどうかは、今後の競争力を大きく左右する分岐点となります。しかし、AI の導入が進んでいるにもかかわらず、調整業務（コーディネーションワーク）に費やす時間がむしろ増加しているという“生産性のパラドックス”も明らかになりました。

- 情報検索に費やす時間は週 15 時間（前年比 + 9 時間）
- 同僚からの質問対応：週 12 時間（前年比 + 7 時間）
- コラボレーションツールの使用：週 10 時間（前年比 + 4 時間）
- 生産性の低い会議：週 9 時間（前年比 + 1 時間）

これは、AI が既存の非効率な業務プロセスの上にただ“上乗せされている”状態であり、本質的な業務改革が伴っていないことを示唆しています。

■「AI と働き方の現在地：2025 年の日本」主な調査結果ハイライト

- AI 利用は増加傾向も、組織全体へのスケールは途上：ナレッジワーカーの週次 AI 利用率は 23%から 35%へと増加したものの、組織全体に AI をスケールできている企業はわずか 17%にとどまりました。



- **AI 導入の阻害要因**：従来のシステムの上に AI を上乘せすることで、業務プロセスに摩擦が生じ、AI の効果を阻害しています。
- **Asana の調査により、組織は大きく 2 つのタイプに分かれることが明らかになりました。**
 - AI スケーラー：複数のワークフローに AI を導入しており、測定、調整、継続的な改善を通じて効果的に運用している組織。
 - 非スケーラー：AI を試験的に導入し、一部の業務に採用しているものの、全従業員への拡大には踏み切れていない組織。
- **AI スケーラーが取り組む 4 つの職場負担の軽減**：AI スケーラーは、組織全体の連携、情報伝達速度、変化への対応力、業務過多といった 4 つの職場負担を軽減するために AI を活用しています。
- **労働力不足への AI の貢献**：日本の労働力不足は深刻化しており、AI は労働力不足を補うための必要不可欠な手段とされています。しかし、組織の多くは、AI を大規模に導入する準備ができていません。
- **2030 年に向けた AI スケーラーの準備**：
 - AI スケーラーは、従業員のウェルビーイングのモニタリング（31%）、従業員のパフォーマンス評価（30%）、AI システムの管理（30%）など、より戦略的な AI の役割を想定。
 - AI リテラシーの必要性が高まり、継続的なスキル開発が求められると予想。
- **経営層と従業員の認識ギャップ**：
 - AI による生産性向上を実感している経営層は 56%である一方、一般社員は 29%にとどまります。
 - 経営層の 58%が AI の実験的活用には意欲的であるのに対し、一般社員は 38%にとどまります。

■AI スケーラーが取り組む「4 つの職場負担」への対策

同レポートでは、AI スケーラーが AI を活用して以下の「4 つの職場負担」を軽減していることを明らかにしました。

1. **連携(Connectivity)の負担**：AI を活用した共通のツールの使用によって、組織横断型



のコミュニケーションや業務遂行の促進。AIを活用することで、連携が改善されたと報告する可能性が 171% 増加。

- 回答者の 10%が「組織全体でチーム同士が効果的に連携している」と回答。
- 38% の従業員が「毎週必要な情報を見つけるのに苦労している」と回答。

2. ベロシティ (Velocity)の負担： AI を活用し、ルーチン業務の自動化や優先順位付けを最適化。AIを活用することで、ベロシティ (仕事の進行速度) が改善されたと報告する可能性が 133% 増加。

- 日本の労働者のわずか 9% が、「自分の組織ではチーム間で情報やアイデアが迅速に伝達されている」と回答。
- ナレッジワーカーは、一日 3 時間を必要な情報を探すために浪費。
- 44%が、緊急でないタスクや依頼で日常的に仕事を中断されると回答。

3. レジリエンス(Resilience)の負担： AI を活用し、リスクを早期に検出し、計画を柔軟に調整。AI を活用することで、レジリエンスが改善されたと報告する可能性が 157% 増加。

- 64% が「同僚が重要な情報を隠している」と回答。
- 46% が「チームメイトが新しいプロジェクトに巻き込まれないように、自分の仕事量を誇張しているのを見たことがある」と回答。
- 56% が「同僚が自分の担当分野を過度に保護している」と報告。

4. キャパシティ(Capacity)の負担： AI を活用し、ルーチンタスクを自動化し、従業員がより創造的な業務に集中できるよう支援。従業員は、AI によって情報を探す時間が短縮されたと答える可能性が、161%増加。

- 63% が過去 1 年間に「燃え尽き症候群」を経験している。
- ナレッジワーカーの作業時間のうち 58%が、過去 6 か月間に、対応できないほどの仕事量を経験している。
- 57%のナレッジワーカーが、「生産性を高めるよりも、忙しく見せることを優先している」と回答。



■Asana ワーク・イノベーション・ラボ

ワーク・イノベーション・リード、マーク・ホフマン博士のコメント

「日本企業は、AI 導入において戦略的な転換期を迎えています。AI を単なるツールとして導入するのではなく、組織全体の働き方を再設計し、従業員のエンパワメント、連携、レジリエンス、そして効率性を高めることで、AI と人との協働が促され、AI の真価を発揮できます。日本企業が、AI スケーラーへと変革を遂げ、グローバル競争力を高めるための情報を提供できるよう、Asana は引き続き尽力してまいります」

■日本企業の強みを生かした AI 活用

本レポートでは、日本企業が AI を導入する上で、以下の強みを活かすことを推奨しています。

- **プロセス重視の文化**：構造化された高品質なプロセスを AI で強化し、早期の問題発見、リアルタイムなパフォーマンス追跡、改善提案などを実現。
- **協調性を重視する文化**：チームの調和を重視する文化を基盤に、AI を活用して責任範囲を明確化し、部門間の連携を促進。
- **長期的な視点**：長期的な計画に重点を置く日本の企業文化と AI を連携させ、段階的かつ持続可能な変革を支援。

■詳細な調査結果と分析

レポート全文では、AI 導入の現状、課題、そして AI スケーラーへの変革に向けた具体的なステップについて、より詳細な分析を提供しています。

Asana「AI と働き方の現在地：2025 年の日本 -なぜ AI だけでは、非効率な仕事が続かないのか-」は、[こちら](#)のリンクからダウンロードしていただけます。

【調査概要】

- 調査名：AI と働き方の現在地：2025 年の日本 -なぜ AI だけでは、非効率な仕事が続かないのか-
- 調査対象：日本国内のナレッジワーカー 2,034 名
- 調査時期：2025 年 4 月
- 調査方法：オンライン調査
- 調査主体：Asana Work Innovation Lab



ワークイノベーションサミット東京 2025 を開催

Asana は、フラッグシップイベント「人と AI が協働する働き方 ～ワークイノベーションサミット東京 2025～」を、8 月 6 日（水）14:00～18:15 に開催いたします。本イベントでは、日本のナレッジワーカー2,000 名以上を対象に実施した最新調査に基づく「AI と働き方」に関するインサイトの共有や、変化の激しい時代に求められる新しい働き方について考えるキーノート、社内変革を通じてイノベーションを実現した企業事例、そしてそれを支える Asana の最新テクノロジーをご紹介します。イベントの詳細およびご参加登録は、[こちら](#)からご確認いただけます。

Asana について

Asana は、人と AI の協働を可能にするワークマネジメントプラットフォームのリーディングカンパニーです。Amazon、Accenture、Anthropic、Morningstar、スズキをはじめとした 17 万社を超える顧客が、チーム間の連携と組織のインパクトを加速させるために Asana を活用しています。戦略的な取り組み、組織横断的なプロジェクト、または全社的な目標の管理など、どのような状況においても、Asana は組織における複雑な状況を明確にし、AI がチームと協力しながら計画を実行に移すのを支援します。詳細については、www.asana.com をご覧ください。

《本件に関するお問い合わせ先》

アサナジャパン株式会社 広報事務局

担当：神谷・水田

Tel: 03-5269-1038 Fax: 03-5269-1039

E-mail：asana@jspin.co.jp